

平成22年度 学校評価報告書

平成22年度 江津市立桜江中学校

生徒像	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 方 策 案
			A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い		達成状況	評価	考 察	評価	
(1) 進んで学び深く考える生徒の育成	①家庭学習習慣と望ましい学び方の定着	○家庭学習2時間以上の定着 ・家庭学習時間が平均2時間以上を目指す	A	生徒の家庭での平均学習時間が2時間以上	定期的な家庭学習調査により、全体で見ると平均2時間以上の家庭学習が定着しているようで、生徒の割合は増えている。しかし、依然として習慣づけができていない生徒もいるので、継続して全体・個別、両面での指導が必要である。	B	家庭学習の効果を生むためには、1日2時間、つまり1週間で14時間が効果を生む最低時間と名付けられている。2時間以上の家庭学習が定着しているようであるが、その中味が問われている。	B	家庭学習に結びつけられるような授業構成を工夫するとともに、家庭学習時間調査の継続、及び学校全体として、各教科の宿題の量などの把握をし、毎日2時間以上の家庭学習が習慣となるように指導の工夫をする。また、家庭学習の内容もさらに生徒が家庭で主体的に取り組みたくなるように充実を図る。
			B	生徒の家庭での平均学習時間が1時間30分～2時間未満					
			C	生徒の家庭での平均学習時間が1時間～1時間30分未満					
			D	生徒の家庭での平均学習時間が1時間未満					
		○家庭学習の質的な向上のための手立て ・個別の能力、定着度に応じた家庭学習を行おう指導する	A	「自分で学習の仕方を工夫した」生徒が80%以上	各教科の宿題はほぼきちんと行うことができているが、学習方法など改善してきたと肯定的な生徒は70%である。授業の予習や復習に役立てることができるよう、授業ノートを分りやすく工夫するなどの指導は効果的に行えたが、ながら勉強をしないなど家庭での学習方法の指導が十分でなかった。	B	授業だけでなくすべての生徒に基礎、基本を定着させるのは難しい。家庭学習によって授業についていけるだけの基礎、基本を生徒が身につけることも大切である。家庭での学習方法の適切な指導が必要である。	B	家庭学習の内容と連動した単元ごと的小テスト等によって自分の課題を把握させ、必ず再テストなどにより苦手なところを克服できるという体験をさせていくことを積み重ねる。それによって達成感を味わわせるとともに、生徒個々に応じた学習内容や学習方法が見つけれられるよう教育相談等の機会も有効に使い、助言、指導する。
			B	「自分で学習の仕方を工夫した」生徒が60～80%					
			C	「自分で学習の仕方を工夫した」生徒が50～60%					
			D	「自分で学習の仕方を工夫した」生徒が50%未満					
	②基礎・基本の定着	○TT指導および個別指導 ・授業でTTの特徴を生かした個別指導を行う	A	80%以上のTTの授業で、個別指導を必要とする全生徒の指導を行った	学力向上支援員、特別支援教育支援員だけでなく、T2として他教科の教員が授業に参加し、80%以上のTT授業で個別指導を行うことができた。今後は、さらに特定の生徒に集中した指導だけでなく、より多くの生徒の実態を把握しながら、集団の学習内容の理解が進むTTの授業ができるよう授業者同士が工夫していく必要がある。	A	これらの指導により、より多くの生徒に手をかけることができるようになり、成果も上がっている。今後は、生徒の学力を向上させるために、指導技術や教材研究など教員や支援員の力量を高めるとともに、指導方法についても研究を深めていくことが望まれる。	A	教科担当教員が中心となって直前に口頭中心で行っていたTT指導の事前打ち合わせを、簡単な事業展開を提示するようにし、生徒の活動を予想した指導ができるように配慮する。また、授業後に気づいた改善点などを積み重ねられるように簡単な記録の交換をするなど個別の生徒だけでなく、集団全体に効果的な実施方法も検討する。あわせて、引き続き学力向上支援員・特別支援教育支援員の確保により補充指導を充実させ、基礎学力の定着を図る。
			B	60～80%のTTの授業で、個別指導を必要とする全生徒の指導を行った					
			C	TTの授業で、個別指導を必要とする生徒の指導を行った					
			D	TTの授業を行った					
○モジュール学習 ・モジュール学習評価テストで平均点が80点以上を目指す		A	モジュール学習評価テストで学年平均点が80点以上	漢字、計算、英単語の3つを日替わりで、朝の10分間を利用し、モジュール学習に取り組んだ。どの学年も、学んだ内容を確認する評価テストにおいて、平均点が80点以上を越えた。今後は継続して取り組み、個々の生徒(特に進度の早い生徒)に十分対応する内容となるように改善したい。	A	モジュール学習が、脳を活性化させることは、科学的にも明らかにされている。教員が生徒に合わせるのではなく、生徒がついて来ることができるように指導を磨いていくことが重要である。	A	現在のやり方では、個々の進度に差が出てしまうので、今後は課題内容を検討し、全員が必ず学習するものと、進度の早い生徒には、応用問題を設定し、それぞれの生徒の達成感の充実を図りたい。また、国語、数学、英語に加え、理科、社会の教科も実施できるように検討し、少しでも生徒の学習意欲を高めていく。	
		B	モジュール学習評価テストで学年平均点が70点～80点未満						
		C	モジュール学習評価テストで学年平均点が60点～70点未満						
		D	モジュール学習評価テストで学年平均点が60点未満						
③学習意欲と表現力の定着	○校内授業研究会の開催 ・校内研修に計画的に取り組み、学習意欲と表現力の指導改善を図る	A	校内研修を計画的に実施し、研修を深めたことで教員の資質向上につながった	校内研修の年間計画に沿って研究授業を行い、研修に努めた。研究主題に沿った授業展開や内容を行うよう、共通理解を図り取り組んだ。授業研究では、参画型の協議実施により話し合いを深めることができた。これまでの授業展開としてワークシート記入からグループ別の協議、そして全体への発表という流れが生徒の意欲の向上にも繋がってきたが、生徒間の活発な意見のやりとりや発言の活発化までには至らず、さらに指導法の改善が必要である	B	校内の研修を計画的に実施し、共通理解を図り取り組んだ。参画型の協議実施により生徒の意欲向上に繋がってきたが、さらに指導法を改善され生徒の意欲向上に取り組んでいきたい。	B	全教科の授業研究を実施しながら、特に生徒が自分の思いや考え方を生き生きと表現できる題材の授業研究を計画的に行い、その中で学習意欲と表現力が向上する共通した指導法や授業展開を重点的に探り、明確にしていきたい。また、授業の基盤となる学級集団のつながりについても教員の資質向上を図った研修を実施する。	
		B	校内研修を計画的に実施し、研修を深めた						
		C	校内研修を計画的に実施した						
		D	校内研修の実施が不十分であった						
	○学習意欲と表現力向上のための授業の改善 ・授業展開の改善と課題の工夫などにより、学習意欲と表現力の向上を図る	A	授業展開の改善と課題の工夫などにより、学習意欲と表現力の向上が十分に見られた。	アンケートでは、ノートを工夫し、分りやすく整理できている生徒は、80%以上であるが、授業や学級の話し合いで発表する生徒は60%以下となっている。学習の基礎基本の定着は学力調査でも平均をやや越えているが、応用的な問題に対してはまだ十分な解答率にいたっていない。これまでの授業展開や課題提示の改善に加え、さらに学習意欲と表現力を高める工夫が必要である。	B	授業展開と課題の工夫により学習意欲の向上が感じられるが、ただ応用問題など不十分な面もあり、より改善と課題の工夫が必要と思われる。	B	各教科で、「自己評価シート」の実施や、自己表現活動の積極的な導入、ワークシートの工夫による表現力の向上、小テストでの計画的な学習の定着など、これまでの取り組みを生徒の主体的な取り組みとなるよう工夫して授業展開を改善していきたい。また、作文・スピーチ・研究発表などのコンテストや大会での出場者や受賞者が増加し、表現力の向上が見られたが、さらにコンテストや大会、検定の挑戦者が増えるように生徒個人あるいは家庭への継続した呼	
		B	授業展開の改善と課題の工夫などにより、学習意欲と表現力の向上が見られた。						
		C	授業展開の改善と課題の工夫などを行ったが、学習意欲と表現力の向上があまり見られなかった。						
		D	授業展開の改善と課題の工夫などを行ったが、学習意欲と表現力の向上が見られなかった。						
活動全体の評価					<p>確かな学力の育成に向け、授業及び家庭学習の関連を図りながら指導を行ってきた。家庭学習時間が毎日2時間以上に向けての取り組みは順調にできてきていると思うが、生徒が自らの課題を明確にし、主体的に学習に取り組もうとする態度が見られるようになるには、折々の定期テストや単元テストに備えた学習方法のガイダンスや教科の宿題だけでなく、生徒が家庭でも自主的に学習するための学習方法の提示など教師側の工夫と努力が必要である。「書くこと」による表現力の育成の研究は、表現力を高める手だてについて研修を深めることができ、生徒の表現力も向上してきた。しかし、表現力が不十分な生徒もまだおり、表現力の活動に関する保護者の意見を求めるなど時に家庭も巻き込んだ指導をするなど、今後も継続して取り組んでいく必要がある。</p>				

生徒像	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 方 策
			A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い		達成状況	評価	考 察	評価	
(2) 思いやりと豊かな心をもつ生徒の育成	①自分の良さを 感じる心の育成	○生徒との積極的なふれあい「良さ」の評価 ・日々の触れ合いやあゆみのやりとり、学級の様々な活動等を通して生徒一人ひとりの良い面をしっかりとほめ、より良くなるように適切にアドバイスする	A	生徒に「良さ」を伝える場面を計画的に設定し、生徒と積極的に触れ合い、適切にアドバイスができた	学級通信や「あゆみ」へのコメント、全校朝礼での表彰などで、生徒自身の良さを伝えることができた。また、日々提出される「あゆみ」や定期的な教育相談や日頃の会話を通じて生徒に適切にアドバイスを行うことができた。また人権集会を通して自分の良さ、友達の良さについて考えさせることもできた。	A	積極的に適切なアドバイスができたことは賞賛される。ただ、アンケートにある「あゆみ」が毎日提出できていない生徒もいるので、この点などさらなる努力をして欲しい。	A	朝終礼などでの指導を継続していくことと、さらに生徒の生活上のよい面を確実に把握するためにもより細かな情報収集に心がけていきたい。また、日常の授業においても個々の生徒の発言や活動を大切に、生徒に的確なコメントや支援ができる配慮をしていく。そのためにも担任や職員会での生徒の情報交換を密にしていきたい。
			B	生徒に「良さ」を伝える場面を計画的に設定し、生徒と触れ合い、アドバイスができた					
			C	生徒に「良さ」を伝える場面を設定し、生徒と触れ合い、アドバイスができた					
			D	生徒に「良さ」を伝える場面を設定したが、生徒とあまり触れ合い、アドバイスできなかった					
	②友達の良さを 認める心の育成	○学び合い、高め合う学級集団の育成 ・ペア学習、グループ学習、友だちの良いところさがしなど友だちの良さに気付く活動を積極的に行う	A	授業や学級活動、学校行事など友だちの良さに気付く活動を計画的に取り組み入れ、多くの場面で友だちの良さに気付かせることができた	授業でグループ学習やペア学習を通して友達の良さに気付かせる場の設定をすることができた。また、生徒会の挨拶強化運動や行事に向けて一人一人の取り組みを掲示することで、友達の良さに気付く活動を積極的に行うことができた。また、人権集会を通して、友達の良さに気づく学習を行うことができた。	A	多くの場面で友達の良さに気づく学習が行われた。中学生には、心の育成がかかせません。様々な機会をとらえ、より一層心の育成をお願いしたい。	A	授業での共同学習や生徒会活動など他者との関わり活動を継続していき、良好な人間関係を育成していきたい。学級や生徒会での集団に加えて、清掃などでの縦割り班でのリーダー育成に取り組み、また、部活動での人間関係についても職員が把握し、指導していく。
			B	授業や学級活動、学校行事など友だちの良さに気付く活動を計画的に取り組み入れ、友だちの良さに気付かせることができた					
			C	授業や学級活動、学校行事など友だちの良さに気付く活動を計画的に取り組み入れた					
			D	授業や学級活動、学校行事など友だちの良さに気付く活動を取り組み入れた					
	③人権・同和教育の 推進	○定期的な人権・同和教育研修の実施 ・人権・同和教育研修を計画的に取り組み、学校教育活動において全職員が人権意識を高める	A	人権・同和教育研修を計画的に実施し、研修を深めたことで教員の資質向上につながった	職員会に合わせ、人権・同和教育職員研修を実施している。また、2学期には人権・同和教育に関わる授業の公開、授業研究会、人権集会に合わせた職員研修を行うことができた。研修では、普通学級と特別支援学級とをつなげた薄作についてなど人権意識をもった視点での学校生活の改善点を話し合うことができた。同和問題についてもさらに研修を深める必要がある。	B	職員会に合わせて、人権・同和研修を実施したり、人権・同和教育に関わる公開授業をされる等、人権意識の高揚に努められている様子が伺えますが、諸問題解決のため、尚一層の研鑽に努めて欲しい。	B	職員一人一人が常に人権・同和教育の視点をもって考えられるように、実際の学校生活の中での気づきなどを取り上げて、今後さらに内容の充実を図っていき、定期的な研修も継続して実施したい。道徳などの授業において、人権・同和教育の視点を中心に授業研究会を行いたい。
			B	人権・同和教育研修を計画的に実施し、研修を深めた					
			C	人権・同和教育研修を計画的に実施した					
			D	人権・同和教育研修の実施が不十分であった					
○生徒会を中心とした人権集会の充実 ・生徒会を中心とした人権集会に主体的に取り組みせ、生徒の人権意識を向上させる		A	生徒が人権集会に主体的に取り組み、人権意識の向上が顕著に見られた	”一人の一步で大きな変化～新しい自分を見つけよう～”の生徒会スローガン(人権集会テーマ)のもと、体育祭、文化祭、学習活動に向けて取り組めた。また、人権集会では自他の良さに気付く生徒会主体の活動を中心に行い、人権問題に関心を持ち、解決に向けて考えることができたことと肯定的に答えた生徒が90%以上であり、人権意識向上につながったが、人権集会で大きな声で発表できたことと肯定的に答えた生徒が60%以下であり、もっと自己表現力を高める必要がある。	B	”一人の一步で大きな変化～新しい自分を見つけよう～”の人権集会の素晴らしいテーマのもとで各活動に取り組まれ、生徒会主体に行われた事が、自分の良さ、友達の良さに気づき、人権問題に関心を持ち、問題解決を考える事が出来た。アンケートにおいて90%以上の肯定的な答えとして表れている。改善案にもあるように継続して取り組まれる事が人権の意識化に繋がり、自己表現力も高まると思う。	B	生徒会の目標と人権集会の目標とを関連をもたせ、日々の生徒会活動の実践が人権の意識化に繋がるように継続して取り組んでいく。そのために生徒会本部を主体に、年間を通して全校に向けた人権意識を高める掲示活動に継続して取り組み、人権集会もその流れの一つとなるように位置づけて取り組ませたい。	
		B	生徒が人権集会に主体的に取り組み、人権意識の向上が見られた						
		C	生徒が人権集会に取り組み、人権意識の向上が少しずつ見られた						
		D	生徒が人権集会に取り組み、人権意識の向上が見られなかった						
			活動全体の評価		思いやりと豊かな心を持つ生徒の育成を目指し、生徒への働きかけ、職員への働きかけを行ってきた。生徒への働きかけでは、日々のふれあい、「あゆみ」などのやりとり、教育相談、学級の様々な活動、道徳、学活、授業でのペア・グループ学習、作品の他者評価、友達のよいところ探し、人権作文・標語作り、人権集会などを計画的に行うことができた。その結果として人権に対する意識は高められたが、自己の問題として十分に感じ取れるまでには至ることができなかった。さらに、日々の生徒とのふれあいを大切に、これらの活動を継続させていきたい。職員への働きかけでは職員会に合わせて実施した職員研修、授業研究、人権集会に向けての職員研修を行った。今後内容を充実させ、職員の人権意識もさらに向上させていきたい。				

生徒像	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 方 策	
			A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い		達成状況	評価	考 察	評価		
(3) ねばり強く心身を鍛える生徒の育成	①基本的な生活習慣の確立	○担任会の定期的な開催 ・定期的に担任会を実施し、生徒について情報交換を行い、全職員で共通理解した指導を行う。	A	定期的に担任会を実施し、生徒について情報交換を行い、全職員で共通理解に立った効果的な指導ができた	定期的	定期的に担任者会を開き、生徒について情報交換や、生徒指導上の注意事項の共通理解を密に行うことができた。職員会等で全職員へ共通理解を図ることが十分ではなかった。また、全職員で協力して効果的な指導を施すまでには至らなかった。	B	定期的な担任会を開き、生徒についての情報交換や、指導上の注意事項の共通理解等十分に行い、また職員間の話し合いの場を重ね、連絡を密にして、諸問題の解決にあたって欲しい。	B	不登校生徒の対応やいじめ問題などの対応で、関係職員で連携して取り組めた点では良かったが、問題が解決できずとはいえないので、今後さらに職員間の連携が強まり、諸問題に対してよりよい対応ができるよう、職員間の話し合いの場を多く取り入れていきたい。
			B	定期的に担任会を実施し、生徒について情報交換を行い、全職員で共通理解に立った指導ができた	定期的	定期的に担任会を実施し、共通理解に立った指導ができた	B	定期的な担任会を開き、生徒についての情報交換や、指導上の注意事項の共通理解等十分に行い、また職員間の話し合いの場を重ね、連絡を密にして、諸問題の解決にあたって欲しい。	B	不登校生徒の対応やいじめ問題などの対応で、関係職員で連携して取り組めた点では良かったが、問題が解決できずとはいえないので、今後さらに職員間の連携が強まり、諸問題に対してよりよい対応ができるよう、職員間の話し合いの場を多く取り入れていきたい。
			C	定期的に担任会を実施し、共通理解に立った指導ができた	定期的	定期的に担任会を実施し、共通理解に立った指導が十分でできなかった	B	定期的な担任会を開き、生徒についての情報交換や、指導上の注意事項の共通理解等十分に行い、また職員間の話し合いの場を重ね、連絡を密にして、諸問題の解決にあたって欲しい。	B	不登校生徒の対応やいじめ問題などの対応で、関係職員で連携して取り組めた点では良かったが、問題が解決できずとはいえないので、今後さらに職員間の連携が強まり、諸問題に対してよりよい対応ができるよう、職員間の話し合いの場を多く取り入れていきたい。
			D	定期的に担任会を実施し、共通理解に立った指導が十分でできなかった	定期的	定期的に担任会を実施し、共通理解に立った指導が十分でできなかった	B	定期的な担任会を開き、生徒についての情報交換や、指導上の注意事項の共通理解等十分に行い、また職員間の話し合いの場を重ね、連絡を密にして、諸問題の解決にあたって欲しい。	B	不登校生徒の対応やいじめ問題などの対応で、関係職員で連携して取り組めた点では良かったが、問題が解決できずとはいえないので、今後さらに職員間の連携が強まり、諸問題に対してよりよい対応ができるよう、職員間の話し合いの場を多く取り入れていきたい。
	②体力づくりの習慣化と体力の向上	○保健体育科における取り組み ・授業を通して体力を向上させる	A	授業を通して体力向上に継続的に取り組み、多くの点で体力の向上が図られた。	1学期	1学期の前半は体力向上のための、継続した取り組みができなかった。1学期末から筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	1学期末より授業を通して体力向上のための取り組みは出来ているが、体力向上筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	継続したトレーニングの実施と体力向上の意識を高めることを心がけ、体育的行事に向けて全校でトレーニングに取り組んだり、生徒への呼びかけを積極的に行ったりしていきたい。日常の授業においても学習する種目に対応してトレーニングに変化を持たせながら、自己の体力向上に挑戦する意欲を高めていきたい。
			B	授業を通して体力向上に継続的に取り組み、体力の向上が図られた。	1学期	1学期の前半は体力向上のための、継続した取り組みができなかった。1学期末から筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	1学期末より授業を通して体力向上のための取り組みは出来ているが、体力向上筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	継続したトレーニングの実施と体力向上の意識を高めることを心がけ、体育的行事に向けて全校でトレーニングに取り組んだり、生徒への呼びかけを積極的に行ったりしていきたい。日常の授業においても学習する種目に対応してトレーニングに変化を持たせながら、自己の体力向上に挑戦する意欲を高めていきたい。
			C	授業を通して体力向上の継続的な取り組みが実施できた。	1学期	1学期の前半は体力向上のための、継続した取り組みができなかった。1学期末から筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	1学期末より授業を通して体力向上のための取り組みは出来ているが、体力向上筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	継続したトレーニングの実施と体力向上の意識を高めることを心がけ、体育的行事に向けて全校でトレーニングに取り組んだり、生徒への呼びかけを積極的に行ったりしていきたい。日常の授業においても学習する種目に対応してトレーニングに変化を持たせながら、自己の体力向上に挑戦する意欲を高めていきたい。
			D	授業を通して体力向上の継続的な取り組みが不十分だった。	1学期	1学期の前半は体力向上のための、継続した取り組みができなかった。1学期末から筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	1学期末より授業を通して体力向上のための取り組みは出来ているが、体力向上筋力トレーニングなどに授業前に取り組んだ。今後も筋力トレーニングや走るトレーニングを授業の中で継続していきたい。	C	継続したトレーニングの実施と体力向上の意識を高めることを心がけ、体育的行事に向けて全校でトレーニングに取り組んだり、生徒への呼びかけを積極的に行ったりしていきたい。日常の授業においても学習する種目に対応してトレーニングに変化を持たせながら、自己の体力向上に挑戦する意欲を高めていきたい。
	③学校保健の推進	○生徒会による生活リズム向上の取り組みの充実 ・健康への理解を深め、健康に配慮した望ましい生活習慣を定着させる	A	部活動における取り組み ・部活動を通じ、心身を鍛え、体力と精神力を向上させる	A	部活動の取り組みにより、体力、精神力などの向上が見られ、生徒の自主的な取り組みが見られた	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	集会を開き、部は異なっても全校で部活動を高めよう働きかけたが、十分に効果があったとはいえず、いじめ問題がおこったので、今後顧問同志のつながりを深め、基本的な部活運営の共通理解を図り、指導の歩調をきちんとそろえたい。また、保護者との連携強化に努め、生徒の部活への帰属意識を高めていきたい。
			B	部活動の取り組みにより、体力、精神力などの向上が見られた	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	集会を開き、部は異なっても全校で部活動を高めよう働きかけたが、十分に効果があったとはいえず、いじめ問題がおこったので、今後顧問同志のつながりを深め、基本的な部活運営の共通理解を図り、指導の歩調をきちんとそろえたい。また、保護者との連携強化に努め、生徒の部活への帰属意識を高めていきたい。
			C	部活動の取り組みにより、体力、精神力などの向上があまり見られなかった	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	集会を開き、部は異なっても全校で部活動を高めよう働きかけたが、十分に効果があったとはいえず、いじめ問題がおこったので、今後顧問同志のつながりを深め、基本的な部活運営の共通理解を図り、指導の歩調をきちんとそろえたい。また、保護者との連携強化に努め、生徒の部活への帰属意識を高めていきたい。
			D	部活動の取り組みにより、体力、精神力などの向上が見られなかった	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	夏休みに部活動集会を開いて、体力、マナーの向上などを呼びかけたが、顧問の指示には積極的に取り組む姿勢が定着しているが、自主的な取り組みができていない、あいさつができないなど主に精神面での課題が多いので、今後も集会等で呼び掛けていきたい。	B	集会を開き、部は異なっても全校で部活動を高めよう働きかけたが、十分に効果があったとはいえず、いじめ問題がおこったので、今後顧問同志のつながりを深め、基本的な部活運営の共通理解を図り、指導の歩調をきちんとそろえたい。また、保護者との連携強化に努め、生徒の部活への帰属意識を高めていきたい。
	④安全対応能力の向上	○各種健康教室の実施 ・各種健康教育や学校保健委員会を計画的に実施し、自己管理ができるように指導する	A	各種健康教育や学校保健委員会を計画的に実施し、自己管理ができた	A	1・2年は1・2学期に栄養教諭による食育指導と養護教諭による禁煙教育を、3年は3学期に薬物・エイズ・食育等各種健康教室を外部講師を招き実施した。学校保健委員会では、心の健康について授業公開・講演会を開催し、自分の行動や考え方に活かされた生徒が89%だった。病気やケガに気を付ける生徒が増加し自己管理に努めた。	A	各種健康教室や学校保健委員会を計画的に実施しておられる。成長期である生徒の自己管理には保護者の協力・援助も大切なので、保護者の健康意識向上に向けて更なる呼びかけに努めて欲しい。	A	自己管理ができにくく、欠席や保健室入室等が多い生徒については、全体指導だけでなく、時間を設定し個別指導を積極的に行う。また、保護者への生徒の「健康の記録」を定期的に送付しているが、さらに家庭での健康意識が高められるように保健日より等の改善をさらに図りたい。
			B	各種健康教育や学校保健委員会を計画的に実施し、自己管理に努めた	A	1・2年は1・2学期に栄養教諭による食育指導と養護教諭による禁煙教育を、3年は3学期に薬物・エイズ・食育等各種健康教室を外部講師を招き実施した。学校保健委員会では、心の健康について授業公開・講演会を開催し、自分の行動や考え方に活かされた生徒が89%だった。病気やケガに気を付ける生徒が増加し自己管理に努めた。	A	各種健康教室や学校保健委員会を計画的に実施しておられる。成長期である生徒の自己管理には保護者の協力・援助も大切なので、保護者の健康意識向上に向けて更なる呼びかけに努めて欲しい。	A	自己管理ができにくく、欠席や保健室入室等が多い生徒については、全体指導だけでなく、時間を設定し個別指導を積極的に行う。また、保護者への生徒の「健康の記録」を定期的に送付しているが、さらに家庭での健康意識が高められるように保健日より等の改善をさらに図りたい。
			C	各種健康教育や学校保健委員会を実施した	A	1・2年は1・2学期に栄養教諭による食育指導と養護教諭による禁煙教育を、3年は3学期に薬物・エイズ・食育等各種健康教室を外部講師を招き実施した。学校保健委員会では、心の健康について授業公開・講演会を開催し、自分の行動や考え方に活かされた生徒が89%だった。病気やケガに気を付ける生徒が増加し自己管理に努めた。	A	各種健康教室や学校保健委員会を計画的に実施しておられる。成長期である生徒の自己管理には保護者の協力・援助も大切なので、保護者の健康意識向上に向けて更なる呼びかけに努めて欲しい。	A	自己管理ができにくく、欠席や保健室入室等が多い生徒については、全体指導だけでなく、時間を設定し個別指導を積極的に行う。また、保護者への生徒の「健康の記録」を定期的に送付しているが、さらに家庭での健康意識が高められるように保健日より等の改善をさらに図りたい。
			D	各種健康教育や学校保健委員会が一部しか実施できなかった	A	1・2年は1・2学期に栄養教諭による食育指導と養護教諭による禁煙教育を、3年は3学期に薬物・エイズ・食育等各種健康教室を外部講師を招き実施した。学校保健委員会では、心の健康について授業公開・講演会を開催し、自分の行動や考え方に活かされた生徒が89%だった。病気やケガに気を付ける生徒が増加し自己管理に努めた。	A	各種健康教室や学校保健委員会を計画的に実施しておられる。成長期である生徒の自己管理には保護者の協力・援助も大切なので、保護者の健康意識向上に向けて更なる呼びかけに努めて欲しい。	A	自己管理ができにくく、欠席や保健室入室等が多い生徒については、全体指導だけでなく、時間を設定し個別指導を積極的に行う。また、保護者への生徒の「健康の記録」を定期的に送付しているが、さらに家庭での健康意識が高められるように保健日より等の改善をさらに図りたい。
④安全対応能力の向上	○生徒会による生活リズム向上の取り組みの充実 ・健康への理解を深め、健康に配慮した望ましい生活習慣を定着させる	A	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が80%以上	B	文化祭において生徒自ら生活リズムの結果から、睡眠について取り上げ文化祭で発表し、保護者や地域へ情報発信した。就寝時刻や体調などは徐々に良くなってきている。しかし、食事時のテレビ視聴は、家庭の意識によるところが大きく、家により差が出てきた。3学期の記入時に、食事時のテレビ視聴とテレビ・ゲームの時間が達成できるよう働きかけた。	B	文化祭において生徒自ら生活リズムを題材にした発表をしたことは、保護者に対して良いはたらきかけになった。しかし、2年生におけるテレビ・ゲーム視聴時間等の目標達成率が悪く、評価の点では今ひとつである。生活リズム向上という課題は、親の生活習慣の影響が多であり、今後はチャレンジシート等、親自身が参加できたりするよう、親子相互に意識向上をする工夫をしてもらいたい。	B	食事時のテレビ視聴やテレビ・メールの時間について、家族で取り組めるよう小・中連携した指導を行う。家庭での取り組みが広がるようにPTA組織との連携を計画的に実施し、生活リズムの安定化による生活習慣の改善を図りたい。	
		B	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が60%以上	B	文化祭において生徒自ら生活リズムの結果から、睡眠について取り上げ文化祭で発表し、保護者や地域へ情報発信した。就寝時刻や体調などは徐々に良くなってきている。しかし、食事時のテレビ視聴は、家庭の意識によるところが大きく、家により差が出てきた。3学期の記入時に、食事時のテレビ視聴とテレビ・ゲームの時間が達成できるよう働きかけた。	B	文化祭において生徒自ら生活リズムを題材にした発表をしたことは、保護者に対して良いはたらきかけになった。しかし、2年生におけるテレビ・ゲーム視聴時間等の目標達成率が悪く、評価の点では今ひとつである。生活リズム向上という課題は、親の生活習慣の影響が多であり、今後はチャレンジシート等、親自身が参加できたりするよう、親子相互に意識向上をする工夫をしてもらいたい。	B	食事時のテレビ視聴やテレビ・メールの時間について、家族で取り組めるよう小・中連携した指導を行う。家庭での取り組みが広がるようにPTA組織との連携を計画的に実施し、生活リズムの安定化による生活習慣の改善を図りたい。	
		C	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が50%以上	B	文化祭において生徒自ら生活リズムの結果から、睡眠について取り上げ文化祭で発表し、保護者や地域へ情報発信した。就寝時刻や体調などは徐々に良くなってきている。しかし、食事時のテレビ視聴は、家庭の意識によるところが大きく、家により差が出てきた。3学期の記入時に、食事時のテレビ視聴とテレビ・ゲームの時間が達成できるよう働きかけた。	B	文化祭において生徒自ら生活リズムを題材にした発表をしたことは、保護者に対して良いはたらきかけになった。しかし、2年生におけるテレビ・ゲーム視聴時間等の目標達成率が悪く、評価の点では今ひとつである。生活リズム向上という課題は、親の生活習慣の影響が多であり、今後はチャレンジシート等、親自身が参加できたりするよう、親子相互に意識向上をする工夫をしてもらいたい。	B	食事時のテレビ視聴やテレビ・メールの時間について、家族で取り組めるよう小・中連携した指導を行う。家庭での取り組みが広がるようにPTA組織との連携を計画的に実施し、生活リズムの安定化による生活習慣の改善を図りたい。	
		D	生活リズムチャレンジシート等の生活習慣に対する肯定的評価が50%未満	B	文化祭において生徒自ら生活リズムの結果から、睡眠について取り上げ文化祭で発表し、保護者や地域へ情報発信した。就寝時刻や体調などは徐々に良くなってきている。しかし、食事時のテレビ視聴は、家庭の意識によるところが大きく、家により差が出てきた。3学期の記入時に、食事時のテレビ視聴とテレビ・ゲームの時間が達成できるよう働きかけた。	B	文化祭において生徒自ら生活リズムを題材にした発表をしたことは、保護者に対して良いはたらきかけになった。しかし、2年生におけるテレビ・ゲーム視聴時間等の目標達成率が悪く、評価の点では今ひとつである。生活リズム向上という課題は、親の生活習慣の影響が多であり、今後はチャレンジシート等、親自身が参加できたりするよう、親子相互に意識向上をする工夫をしてもらいたい。	B	食事時のテレビ視聴やテレビ・メールの時間について、家族で取り組めるよう小・中連携した指導を行う。家庭での取り組みが広がるようにPTA組織との連携を計画的に実施し、生活リズムの安定化による生活習慣の改善を図りたい。	
④安全対応能力の向上	○各種防災教室の実施 ・防災学習を計画的に実施、安全意識の向上に努める。	A	各学習の安全意識評価・まとめて肯定的評価が80%以上	B	防災学習として、避難訓練・日赤の指導員による救命救急法を実施し、肯定的評価が73%、江津警察署少年補導職員による防犯教室は肯定的評価が82%だった。救急法は今年講師を変え指導方法が違い新鮮だったが、防犯教室は内容が多く本校の実態とかけ離れた部分もあり教員の評価は理解を深める上で今一つだった。	B	AEDは今では身近な存在であり、この実践を取り入れたことは生徒にも十分興味を持たせる内容であり評価される。しかし、肯定的評価が伸びなかったことは、今後実践方法について改善すべきである。また、防犯防災教室は学年別にテーマを絞る方法が良いのではないかと。3年生は火災関連の防犯意識にも広げ、1、2年生は火災や水害等の身近な防災意識を高める等、実施方法について改善してもらいたい。	B	防災学習や防犯教室は、生徒の安全意識を高められるように事前打ち合わせを綿密に行い、本校の実態に即したものの、マンネリ化しない内容で今後も計画的に実施する。また、各学年において、身近に起きる自然災害などを題材に各授業や朝終礼などで取り上げ、各防災学習と関連づけながら安全意識の向上を図りたい。	
		B	各学習の安全意識評価・まとめて肯定的評価が60%以上	B	防災学習として、避難訓練・日赤の指導員による救命救急法を実施し、肯定的評価が73%、江津警察署少年補導職員による防犯教室は肯定的評価が82%だった。救急法は今年講師を変え指導方法が違い新鮮だったが、防犯教室は内容が多く本校の実態とかけ離れた部分もあり教員の評価は理解を深める上で今一つだった。	B	AEDは今では身近な存在であり、この実践を取り入れたことは生徒にも十分興味を持たせる内容であり評価される。しかし、肯定的評価が伸びなかったことは、今後実践方法について改善すべきである。また、防犯防災教室は学年別にテーマを絞る方法が良いのではないかと。3年生は火災関連の防犯意識にも広げ、1、2年生は火災や水害等の身近な防災意識を高める等、実施方法について改善してもらいたい。	B	防災学習や防犯教室は、生徒の安全意識を高められるように事前打ち合わせを綿密に行い、本校の実態に即したものの、マンネリ化しない内容で今後も計画的に実施する。また、各学年において、身近に起きる自然災害などを題材に各授業や朝終礼などで取り上げ、各防災学習と関連づけながら安全意識の向上を図りたい。	
		C	各学習の安全意識評価・まとめて肯定的評価が40%以上	B	防災学習として、避難訓練・日赤の指導員による救命救急法を実施し、肯定的評価が73%、江津警察署少年補導職員による防犯教室は肯定的評価が82%だった。救急法は今年講師を変え指導方法が違い新鮮だったが、防犯教室は内容が多く本校の実態とかけ離れた部分もあり教員の評価は理解を深める上で今一つだった。	B	AEDは今では身近な存在であり、この実践を取り入れたことは生徒にも十分興味を持たせる内容であり評価される。しかし、肯定的評価が伸びなかったことは、今後実践方法について改善すべきである。また、防犯防災教室は学年別にテーマを絞る方法が良いのではないかと。3年生は火災関連の防犯意識にも広げ、1、2年生は火災や水害等の身近な防災意識を高める等、実施方法について改善してもらいたい。	B	防災学習や防犯教室は、生徒の安全意識を高められるように事前打ち合わせを綿密に行い、本校の実態に即したものの、マンネリ化しない内容で今後も計画的に実施する。また、各学年において、身近に起きる自然災害などを題材に各授業や朝終礼などで取り上げ、各防災学習と関連づけながら安全意識の向上を図りたい。	
		D	各学習の安全意識評価・まとめて肯定的評価が40%未満	B	防災学習として、避難訓練・日赤の指導員による救命救急法を実施し、肯定的評価が73%、江津警察署少年補導職員による防犯教室は肯定的評価が82%だった。救急法は今年講師を変え指導方法が違い新鮮だったが、防犯教室は内容が多く本校の実態とかけ離れた部分もあり教員の評価は理解を深める上で今一つだった。	B	AEDは今では身近な存在であり、この実践を取り入れたことは生徒にも十分興味を持たせる内容であり評価される。しかし、肯定的評価が伸びなかったことは、今後実践方法について改善すべきである。また、防犯防災教室は学年別にテーマを絞る方法が良いのではないかと。3年生は火災関連の防犯意識にも広げ、1、2年生は火災や水害等の身近な防災意識を高める等、実施方法について改善してもらいたい。	B	防災学習や防犯教室は、生徒の安全意識を高められるように事前打ち合わせを綿密に行い、本校の実態に即したものの、マンネリ化しない内容で今後も計画的に実施する。また、各学年において、身近に起きる自然災害などを題材に各授業や朝終礼などで取り上げ、各防災学習と関連づけながら安全意識の向上を図りたい。	
④安全対応能力の向上	○登下校の安全指導の充実 ・終礼や部活動終了時には、反射タスキ着用や不審者などへの注意を継続し、安全意識の向上を図る	A	終礼や部活動終了時の注意を継続し、生徒の安全意識の肯定的評価が80%以上	B	集会や朝・終礼を通じ、安全面での意識向上に努めた。登下校時の安全について気をつけたと肯定的に解答した生徒が80%以上であった。自転車の乗り方(並進やヘルメットなし)や反射タスキの着用など部活動終了時に指導を行ったが、一部生徒に反射タスキを忘れ、貸し出すなど課題があった。	B	昨年は下校時に危険な自転車の乗り方をする生徒があると聞いていたが、今年度は聞かれなくなり、安全面への指導が徹底されていることは評価する。今後も継続して安全指導を徹底してもらいたい。また、定期的に生徒や保護者に対して、通学路において危険箇所がないかの情報を聞き取りし、事前に把握するようにしていただきたい。	B	地域、警察との連携、街頭指導などにより大きな事故がなく概ね安全に過ごせたが、年度当初は自転車の乗り方等で、注意をすることが多かったため、安全な自転車の乗り方をはじめとして、安全な生活の送り方についての呼びかけを継続していきたい。学級指導での授業において計画的に指導を図りたい。	
		B	終礼や部活動終了時の注意を継続し、生徒の安全意識の肯定的評価が60%以上	B	集会や朝・終礼を通じ、安全面での意識向上に努めた。登下校時の安全について気をつけたと肯定的に解答した生徒が80%以上であった。自転車の乗り方(並進やヘルメットなし)や反射タスキの着用など部活動終了時に指導を行ったが、一部生徒に反射タスキを忘れ、貸し出すなど課題があった。	B	昨年は下校時に危険な自転車の乗り方をする生徒があると聞いていたが、今年度は聞かれなくなり、安全面への指導が徹底されていることは評価する。今後も継続して安全指導を徹底してもらいたい。また、定期的に生徒や保護者に対して、通学路において危険箇所がないかの情報を聞き取りし、事前に把握するようにしていただきたい。	B	地域、警察との連携、街頭指導などにより大きな事故がなく概ね安全に過ごせたが、年度当初は自転車の乗り方等で、注意をすることが多かったため、安全な自転車の乗り方をはじめとして、安全な生活の送り方についての呼びかけを継続していきたい。学級指導での授業において計画的に指導を図りたい。	
		C	終礼や部活動終了時の注意を継続し、生徒の安全意識の肯定的評価が40%以上	B	集会や朝・終礼を通じ、安全面での意識向上に努めた。登下校時の安全について気をつけたと肯定的に解答した生徒が80%以上であった。自転車の乗り方(並進やヘルメットなし)や反射タスキの着用など部活動終了時に指導を行ったが、一部生徒に反射タスキを忘れ、貸し出すなど課題があった。	B	昨年は下校時に危険な自転車の乗り方をする生徒があると聞いていたが、今年度は聞かれなくなり、安全面への指導が徹底されていることは評価する。今後も継続して安全指導を徹底してもらいたい。また、定期的に生徒や保護者に対して、通学路において危険箇所がないかの情報を聞き取りし、事前に把握するようにしていただきたい。	B	地域、警察との連携、街頭指導などにより大きな事故がなく概ね安全に過ごせたが、年度当初は自転車の乗り方等で、注意をすることが多かったため、安全な自転車の乗り方をはじめとして、安全な生活の送り方についての呼びかけを継続していきたい。学級指導での授業において計画的に指導を図りたい。	
		D	終礼や部活動終了時の注意を継続し、生徒の安全意識の肯定的評価が40%未満	B	集会や朝・終礼を通じ、安全面での意識向上に努めた。登下校時の安全について気をつけたと肯定的に解答した生徒が80%以上であった。自転車の乗り方(並進やヘルメットなし)や反射タスキの着用など部活動終了時に指導を行ったが、一部生徒に反射タスキを忘れ、貸し出すなど課題があった。	B	昨年は下校時に危険な自転車の乗り方をする生徒があると聞いていたが、今年度は聞かれなくなり、安全面への指導が徹底されていることは評価する。今後も継続して安全指導を徹底してもらいたい。また、定期的に生徒や保護者に対して、通学路において危険箇所がないかの情報を聞き取りし、事前に把握するようにしていただきたい。	B	地域、警察との連携、街頭指導などにより大きな事故がなく概ね安全に過ごせたが、年度当初は自転車の乗り方等で、注意をすることが多かったため、安全な自転車の乗り方をはじめとして、安全な生活の送り方についての呼びかけを継続していきたい。学級指導での授業において計画的に指導を図りたい。	
			活動全体の評価		生徒の健康管理意識は、生徒会での主体的な活動により身近な問題として日常生活を振り返らせることができたが、個々の生徒の問題として捉えることがあまりできず、体力の向上面においても、部活動へ生徒自らが積極的に取り組もうとする参加意識や向上意識につながるまでには至らなかった。授業をはじめ生徒会活動や各種健康・安全教室、部活動など全体的な指導の場の充実をさらに図り、一部生徒の集団への不適応改善に向け、詳細にわたる状況把握、そして、スクールカウンセラーや専門機関との連携を行い、家庭との連絡を十分に深めながら着実な指導を図りたい。					

生徒像	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 方 策 案
			A=良い、B=やや良い、C=やや悪い、D=悪い		達成状況	評価	考 察	評価	
(4) 社会に学び社会とともに生きる生徒の育成	①ふるさとへの誇りの意識の育成	○各教科における地域講師の活用 ・各教科において、地域講師を招いた授業を展開し、ふるさとへの誇りの育成を図る	A	各教科において、積極的に地域講師を招いて学習を実施し、ふるさとへの誇りを高めることができた	地域の方を講師として学習を進め、生徒の7～8割が「地域について知ることができ、この地域を誇りに思う」と答えている。一方、生徒は地域の方への挨拶が昨年度より進んできていないと考えており、校内での指導が学校外で生きるように指導していく必要がある。地域行事への参加も、部活動との調整を図り、2学期は参加者が増えたので、今後も調整を続けていくことが大切と考える。	B	地域講師を招いての学習に力を入られたことは、地域を知る上で効果的であり、継続して取り組んでほしい。文化祭や学校便りなどからもその様子を知ることができ、生徒にとっても身近な地域からの学習が地域に生きる生徒の力となっていると思う。さらに多くの機会に地域の人材を活用し、公民館等の活動と連携した取り組みにも活動を広げたり、将来にわたって桜江町を誇りに思い、郷土を愛する生徒の心を培う学習を引き続き進めてほしい。	B	中村家の郷倉やふるさと発展に尽力した人調べ、地域での職場体験など、地域の素材を学習に積極的に取り入れ、生徒が地域への関心を引き続き高めていけるよう指導していく。また、地域の方と触れあう機会を増やし、その都度あいさつなどのマナー指導も続け、よりよいコミュニケーションができるよう、継続して取り組んでいく。
			B	各教科において、地域講師を招いて学習を実施することができた					
			C	各教科において、地域講師を招いて学習を実施することがあまりできなかった					
			D	各教科において、地域講師を招いて学習を実施することができなかった					
	②学校からの積極的な発信の推進と保護者との連携	○学校からの各種通信の定期的な発行とHPの定期的な更新 ・校報、HP等で定期的に学校情報の提供を行う	A	定期的に校報、HP等で情報提供し、地域、保護者の学校理解が深まった	校報やHP等で定期的に情報提供することができ、保護者をはじめ、地域の学校理解が深まっている。子供のいない世帯の方も学校からの便りを楽しみにしておられるようで、また、進路関係においても他県高等学校の方がHPから情報得ているということで、色々な方から好評を得ている。今後も内容を更に検討し、継続していくことが重要であると考えている。	A	すばらしいHPにより定期的な情報発信ができ、学校生活の様子をいろいろ知ることができていることを高く評価する。更に、生徒の活動結果だけでなく、今後の学校生活の課題などにも時に揭示され、保護者、地域の援助や支援も要請する事もあってよいと思う。また、生徒の行事や学校生活の様子など全体的な情報提供だけでなく、より細かな現状を示す情報を、もっと学年ごとの保護者あてに発信されてもよいかと思う。	A	HPの定期的な更新を確実にしていくとともに、HPの内容や活用方法の工夫等について、より一層の充実を図っていく。そのためにも、HPについて保護者アンケートをとる等の働きかけを工夫していく。
			B	定期的に校報、HP等で情報提供できた					
			C	校報、HP等で情報提供できた					
			D	校報、HP等で情報提供が不十分であった					
	③小中連携及び学社連携の推進	○小中連絡会の実施 ・各教科、領域において、連携を図り、一貫した指導を行うことを目指す	A	すべての各教科、領域において、各学期1回以上の取り組みができた。	ほとんどの教科、そして交通安全教室や人権集会等の様々な行事、また小学校の外国語活動に中学生や教員が参加するなど小中連携を図る時間を持つことができた。小中で連携し、生徒の育成をはかる上で、大変有意義な取り組みであったと考える。教員同士がそれぞれの立場で生徒や児童の実態を把握することができ、今後もこの取り組みを継続・深化していく必要があると考える。	C	行事での小学生との交流や外国語活動での中学生の活動参加、保育園での体験学習など積極的な取組がなされている。特に、桜江小学校から桜江中学校への限定された校区であり、この条件を生徒にとって有効に生かされるよう、学習内容を小中連携で深めてほしいと思う。そのためにも、自己評価が高まるように、小中学校間の繋がりが深まる活動を工夫し、児童生徒の変化を継続して把握され、的確な指導が行われるよう望む。	C	今年度の取り組みを生かし、更に小中連携の充実を図るために、お互いが授業公開や児童生徒の情報交換の回数を増やし、児童生徒の現状を単刀直入に意見交換し合える雰囲気作りに努める。また、小中教職員の交流会や合同研修会も検討していく。
			B	すべての各教科、領域において、年1回以上の取り組みができた。					
			C	60～80%の各教科、領域において、年1回以上の取り組みができた					
			D	60未満の各教科、領域において、各学期1回以上の取り組みができた					
			活 動 全 体 の 評 価		地域講師を授業に活用することで、ふるさとの良さを再確認し、愛着を持つ生徒が増えていったので今後も積極的に取り入れていきたい。小中連携については、小学校からの指導の継続性が生徒指導上や教科指導上重要となってくるので、今後は少しずつ小中合同の授業研究や児童生徒の情報交換をさらに推進していく必要があると考える。 学校の様子を発信していくことで、学校への関心が高まり、物心両面での支援もして頂き、また、地域からの期待を生徒が感じてがんばる動機づけともなっている。したがって、生徒がいない世帯への配布も今後続けていくことが大切だと考える。				